



茅ヶ崎からグローバルへ 技術戦略と研究開発の発信地 ——地域に根付く企業として



本社・工場外観

◆地域とともに成長してきた本社・工場

株式会社アルバック（以下、アルバック）は、神奈川県茅ヶ崎市の住宅地の中に本社・工場を構えています。敷地面積約 48,000 m²、こちらで働いている人数は、従業員や協力会社を合わせて約 1,600 名です。天気の良い日は 6 階建ての社屋から富士山がよく見え、お客様をお出迎えします。

本社・工場では主に、ディスプレイ、半導体、電子部品、一般産業、医薬品業界向けなどの真空装置・コンポーネントの製造や、研究開発を行っています。非常に大きな装置も扱うため、それぞれの現場では建物の 2 階分の高さを確保しており、一部の現場はクリーンルームとなっています。



本社・工場 5 階に設置されたアルバックの歴史紹介コーナー「History River」



茅ヶ崎市に本社・工場を移転してきたのは 1968 年。当時その周辺は、わずかな小さな工場のほかは広々とした田園風景が続くばかりで、路線バスの運行もなかった



本社から見える富士山とアルバックテクノ株の社屋

◆宇宙のまち ちがさき

茅ヶ崎市は、宇宙とゆかりのあるまちです。宇宙飛行士の野口聡一氏は茅ヶ崎市ご出身です。また、(財)日本宇宙少年団の茅ヶ崎分団の初代団長は、アルバックの第三代社長 林主税が務めていました。

近年、アルバックは、(財)日本宇宙少年団 茅ヶ崎分団の後身であり茅ヶ崎市が全面バックアップしている市民活動団体「ちがさき宇宙フォーラム」に協力し、定期的で開催されている「ちがさき宇宙教室」で子どもたちに真空実験・工場見学を実施しています。マシュマロを膨らませる実験や、水の沸騰、蒸着、真空砲、エアインチョコの実験など、大人も子どもも一緒に楽しめる実験を行っています。



▲ピンポン玉を時速約1,000kmで飛ばしてアルミ缶を貫通させる真空砲の実験
 ▲溶かしたチョコレート真空装置に入れてエアインチョコをつくる実験

◆鶴嶺東地区 コミュニティセンターにて 出張真空実験

茅ヶ崎市鶴嶺東地区のコミュニティセンターが開館15周年を記念した特別イベント開催の際に、出張真空実験を行いました。真空の原理を知ってもらうべく用意した複数の実験では、会場内に何度も驚きの声が上がりました。今後も、子どもたちに理科や真空技術に興味を持ってもらうようなイベントを行っています。



▲半球同士をくっつけるマクデプルクの半球実験

◆休耕田を利用した田んぼプロジェクト

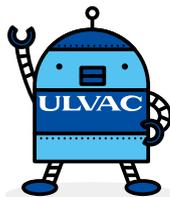
2019年で10年目となる「田んぼプロジェクト」では、子どもの環境教育、従業員のリフレッシュなどを目的として、使われなくなった市内の休耕田をお借りして米づくりを行っています。従業員やその家族だけでなく、地域のNPO団体や大学生と共に、田起こしから田植え、収穫までできるだけ手作業で行います。獲れたお米を皆で食べる収穫祭も開催しています。



▲田植えと稲刈りの様子

◆ULVAC Global Festival (ULFes)

あらゆるステークホルダーの皆様の日頃の感謝の気持ちを込めておもてなしをするイベント「ULVAC Global Festival」を毎年開催しています。国内外グループ各社出店によるグルメグランプリや物産展、縁日、工場見学、真空実験、地元中学生・高校生による吹奏楽・チアリーダーパフォーマンスなど、様々な企画を行っています。また、近隣の児童養護施設の子どもたちもご招待しています。2018年度は当日に約5,000名の来場者にお越しいただくなど、大盛況に終わりました。



▲アルバックイメージキャラクター「あるぼっくん」



▲大抽選会時の集合写真
 ▲子どもたちから大人気のゆるキャラたち

◆茅ヶ崎市海岸ビーチクリーン活動

年に2回、自治会や地元企業と一緒にサザンビーチちがさきでビーチクリーン活動を行っています。茅ヶ崎海岸を利用する方々が気持ちよく利用できるような貢献をしています。



▲えぼし岩を眺めながら海岸清掃

相模湾と里山の大自然 茅ヶ崎市

アルバック本社・工場が茅ヶ崎市に移転してきて50年以上が経ちました。豊かな自然に囲まれた茅ヶ崎市をイラストマップとともにご紹介します。

※このイラストマップは茅ヶ崎市のご指導、ご協力を得て作成したものです。(写真提供も茅ヶ崎市によるものです。)

①ちがさきのシンボル 「茅ヶ崎サザンC」と「えぼし岩」

海水浴場の「サザンビーチちがさき」には、茅ヶ崎の頭文字の「C」をかたどったシンボル「茅ヶ崎サザンC」があり、湘南を歌った歌の中に数多く登場しています。また、沖合いには、平安時代の貴族がかぶっていた烏帽子に似ていることから名付けられた「えぼし岩」があり、名所になっています。茅ヶ崎の4大まつりの「湘南祭」と「サザンビーチちがさき花火大会」が行われるのも、ここサザンビーチです。



茅ヶ崎サザンC



えぼし岩

②夏の到来を告げる茅ヶ崎海岸「浜降祭」

夜明けとともに市内などの各神社から約40基の神輿が浜に集まります。「どっこい、どっこい」という相州神輿独特のかけ声のなか、砂浜を所狭しと乱舞し、五穀豊穡を願う合同神事が行われます。神奈川県無形民俗文化財に指定され、「かながわのまつり50選」にも選ばれている歴史あるお祭りです。



浜降りをする神輿

③生しらす、たたみいわし、釣り・地引き網

湘南、茅ヶ崎の漁場では新鮮な「生しらす」を水揚げします。そのまま食べられるように冷水で洗われたあと、パックされて「朝獲れ生しらす」として出荷されます。また、茅ヶ崎の海は船釣り・磯釣り・投釣りのいずれの釣りを楽しむにも絶好のポイントです。えぼし岩へ磯釣りに出かける人のために漁港から渡し船も出ています。昔ながらの漁法である地引網は現在3軒の網元が営業しています。



生しらすは漁獲量によっては食べれないことも

④関東大震災で出現した旧相模川橋脚

1923年(大正12年)の関東大震災の際に水田の中から現れた橋脚です。1198年(建久9年)、源頼朝の重臣である稲毛三郎重成が、亡妻の供養のために架けたものと考えられています。国の史跡および天然記念物に指定されています。

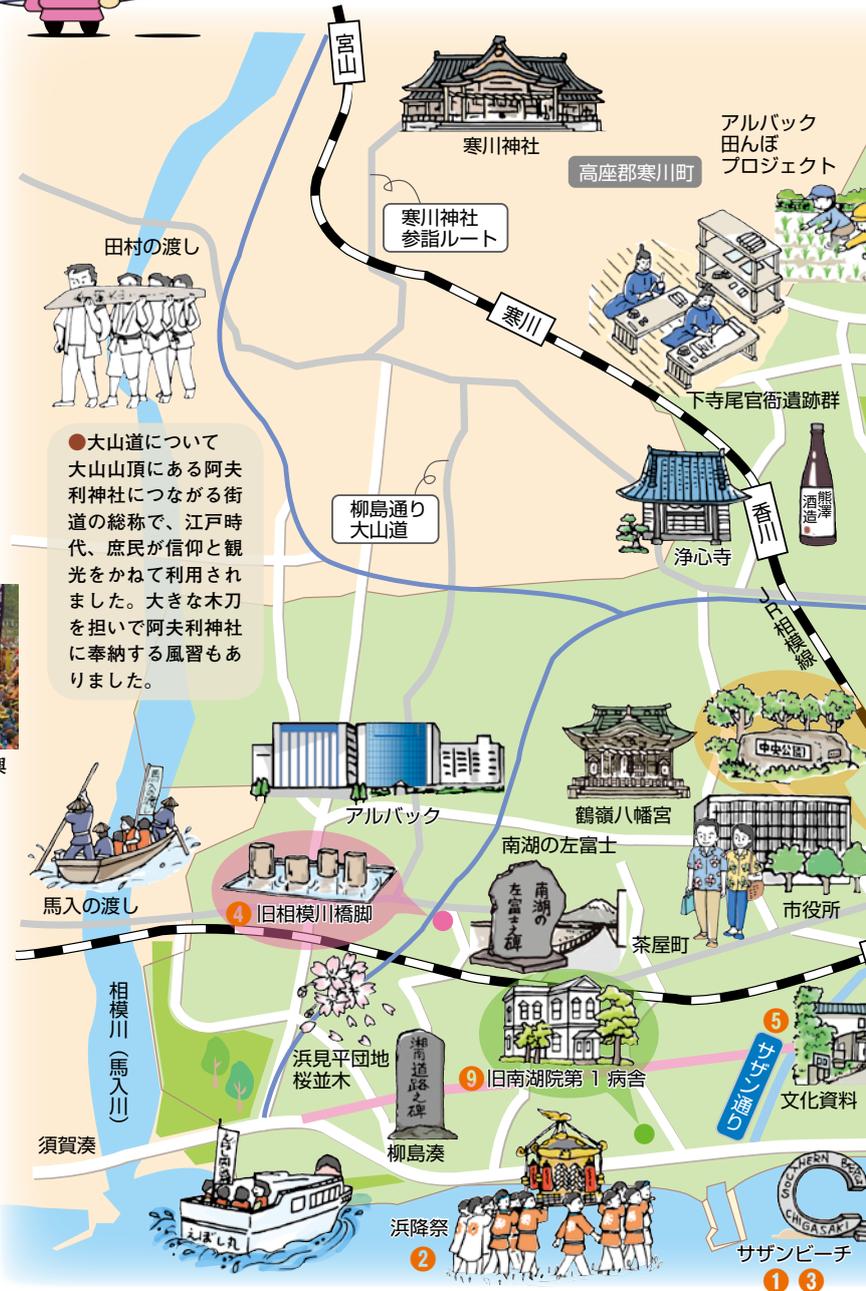


当時の相模川がこの辺りを流れていたことが分かる



●ご当地ゆるキャラのえぼし麻呂とミーナ

茅ヶ崎市オリジナル広報キャラクター
えぼし麻呂:「ちがさき貴族」の9歳くらいの男の子。「~ぞよ」が口癖。ミーナ:波の精霊。波を起こすことができる。



●大山道について
大山山頂にある阿夫利神社につながる街道の総称で、江戸時代、庶民が信仰と観光をかねて利用されました。大きな木刀を担いで阿夫利神社に奉納する風習もありました。

⑤面白い通りの名前

●鉄砲道●東海岸を東西に貫く道で、江戸時代に海岸に設けられていた鉄砲場へ大砲を運んだ道であり、演習する武士が通った道であったのでその名が付いたと言い伝えられます。

●サザン通り●茅ヶ崎駅からサザンビーチまで続く道が平成12年からサザン通りの愛称で呼ばれるようになりました。



【茅ヶ崎の4大まつり】

「大岡越前祭」：江戸時代の名奉行大岡越前守忠相公の遺徳を偲んで行われる春祭りです。
(4月中旬の土日)

「湘南祭」：スポーツ・飲食等の様々な催しが行われます。(4月下旬の土日)

「浜降祭」：神輿が砂浜を乱舞し、茅ヶ崎に夏を告げます。(7月海の日)

「サザンビーチちがさき花火大会」：茅ヶ崎海岸の夜空を彩ります。(8月上旬)

おおおかえちぜんのかみただすけ

6 「大岡越前祭」と大岡越前守忠相

堤という場所を治めていた江戸時代の名奉行、大岡越前守忠相公は、人格、見職共に優れ、將軍徳川吉宗公の信任を得て、江戸町奉行、寺社奉行の要職を歴任するなど、司法官として偉大な足跡を残しました。一方で、経世家、文化人としてその偉業も数多く知られています。浄見寺には大岡一族の墓所があり、忠相公の遺徳を偲んで行われる「大岡越前祭」は、春のお祭りとして広く親しまれています。



越前行列の奴頭(やっこがしら)



●東海道について
江戸と京都を結ぶ東海道は江戸時代一番の幹線街道でした。茅ヶ崎は藤沢宿と平塚宿の中間にあり、相模川が増水したときは茶屋町が間の宿(あいのしゆく)といって臨時に宿場機能を果たしました。

7 自然豊かな茅ヶ崎北部と「腰掛神社」

北部は人と自然が共生する昔懐かしい里山が息づいています。市の天然記念物にも指定されている樹叢が生い茂る「腰掛神社」は、日本武尊が東征の際に腰かけて休んだと言われる「腰掛玉石」が祀られていることから名付けられました。すぐ近くには「県立茅ヶ崎里山公園」があり、里山の景観を受け継ぎながら子供から大人まで楽しめる憩いの場となっています。



たかさなりよくち さだやっこ
8 高砂緑地と川上音二郎・貞奴

茅ヶ崎駅から海の方(南)へ行くと、静かな住宅街の中に緑豊かな高砂緑地があります。この一帯は、明治時代に「オッペケペー節」で一世を風靡した人気新劇俳優、川上音二郎・貞奴夫妻が住まいを構えた場所で、「萬松園」と名付けられました。妻の貞奴も日本の女優第1号として舞台に立ち、活躍しました。



毎年2月には「梅まつり」が開催される



川上音二郎・貞奴夫妻(所蔵 川上新一郎氏)

なんこいん
9 南湖院と国木田独歩

南湖院は、旧結核療養施設として明治期から茅ヶ崎市の発展に大きく貢献するとともに、文化・歴史に大きな影響を与えた施設です。1908年(明治41年)に結核を患った国木田独歩が入院して闘病生活を送ったことから、南湖院が全国に知られるようになりました。



現存する第1病舎の外観(敷地の一部を一般公開している)

●援農ボランティア制度

茅ヶ崎市は、漁業のほかに農業も盛んです。援農ボランティア制度では市内の農家の人手不足の解消を図るとともに、健康増進など市民の余暇の充実と農業への理解を深め、農業の振興を図ることを目的としています。



秋野菜の収穫作業

●夏はアロハビズ！ Honoluluとは姉妹都市

茅ヶ崎市は海に面していて過ごしやすい気候であり、たくさんのハワイアンショップが立ち並んでいます。アロハシャツを着てもらおうと茅ヶ崎アロハ委員会により2003年(平成15年)からアロハビズが提唱され、市の職員も夏はクールビズならぬ「アロハビズ」で仕事をしています。また、米国ハワイ州Honolulu市とは姉妹都市で、フラダンス愛好家も多く、フラダンスの世界的大会も開催されました。



アロハビズで勤務

- 雄三通り ●以前は海岸付近に加山雄三郎がありました。古くは、加山雄三の父の名から「上原謙通り」とも呼ばれました。
- ラチエン通り ●1932年(昭和7年)にドイツ人貿易商のドルフ・ラチエンが通り沿いに大きな別荘をつかったことからその名前で呼ばれるようになりました。

*観光のタネ、道の愛称事業、市HP(商店会紹介ページ)より引用

